

# 雪わり草

安曇野赤十字病院広報誌



日本赤十字社  
Japanese Red Cross Society

2019 56 号

## Contents

- 02 腰椎椎間板ヘルニアの新しい治療
- 03 腰椎椎間板ヘルニアの新しい治療
- 04 新年のご挨拶
- 05 「薬剤耐性対策アクションプラン」について
- 06 部署紹介（4E病棟）
- 07 地域の診療所紹介（山田医院）
- 08 トピックス

表題（愛称）雪わり草

冬の厳しさに耐え  
春の訪れを告げるように  
雪を割って可憐な花を  
咲かせる雪わり草。  
この小さな花の希望を持って  
逆境に耐え抜く力強さを  
紙面に載せ、地域の皆さまへ  
お届けしたく  
「雪わり草」と名付けました。  
花言葉：忍耐・信頼・はにかみやなど



## 写真解説

### 三者三様？（撮影 安曇野市御宝田遊水地）

遥か遠いシベリアから、2週間かけて3000kmもの距離を移動するコハクチョウ。  
全く違う行動をとる三羽のコハクチョウが、同じ川面（かわも）でひと時の休息をとっているのは、果たして偶然？ それとも必然？



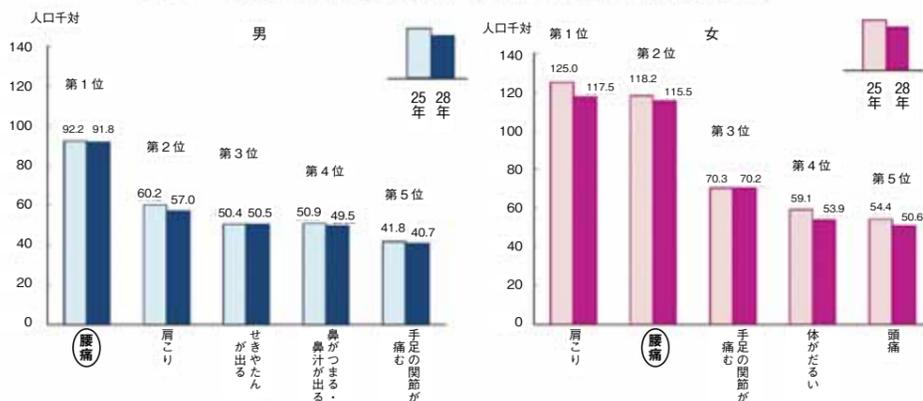
Coffey's photography

この広報誌は地球にやさしい再生紙を使用しています。

# 腰椎椎間板ヘルニアの新しい治療

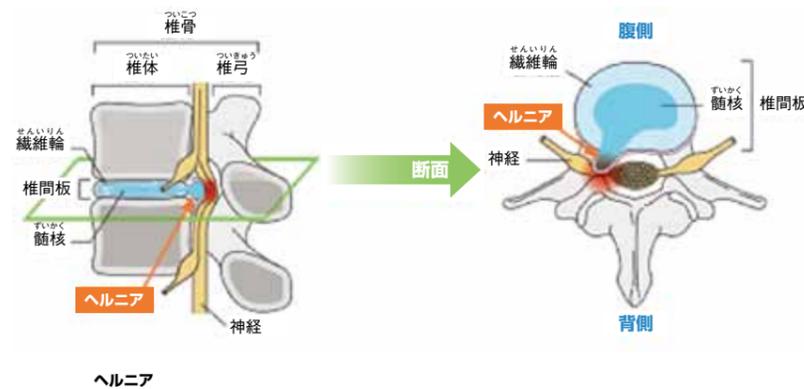
腰痛は多くの方が訴える症状であり、腰椎椎間板ヘルニアはその腰痛の代表的な原因です。20～40歳代の方に多い病気です。腰痛や下肢の痛みやしびれなどの症状を引き起こします。

〈性別に見た有訴者率の上位5症状（複数回答）〉

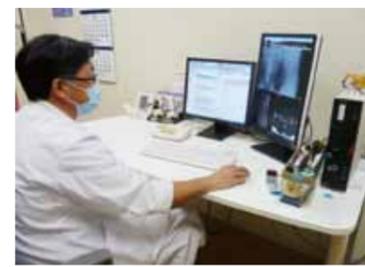


注：1) 有訴者には入院者は含まないが、分母となる世帯人員には入院者を含む。  
2) 平成28年の数値は、熊本県を除いたものである。

〈ヘルニアイメージ〉



**腰椎** は椎間板ヘルニアと背骨の骨と骨をつなぐのが椎間板です。椎間板の中心にはゼリー状の髄核があり、周囲を線維輪というしっかりしたコラーゲン線維が覆っており、背骨の支持性・可動性を担い、クッションの役割もしています。ヘルニアは線維輪に亀裂が入り、そこに髄核が入り込み神経を圧迫して痛みやしびれを引き起こす病気です。治療



整形外科部長  
泉水 邦洋

は、薬の使用やブロック注射などの保存療法を行うことで8～9割の患者さんは3カ月以内に軽快します。しかし、保存療法で十分な改善が得られず症状が強い時などに手術が検討されます。手術療法は、一般的には全身麻酔で行われ、入院から退院まで7～10日程度を要し、仕事への復帰には1カ月程度かかります。患者さんの多くが働き盛りの年齢のため、仕事への影響を考慮し手術をせずに痛みを我慢しながら生活することも少なくありません。

## 腰椎

椎間板ヘルニアに対する新しい注射

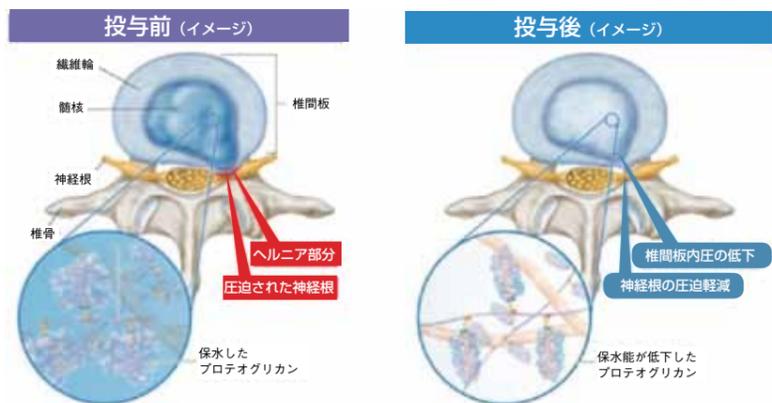
薬治療（椎間板内酵素注入療法）海外では、1982年よりたんばく分解酵素であるキモパインを椎間板内の髄核に直接注入することで椎間板内圧を低下させる治療が行われていましたが、副作用などの問題で販売中止となりました。女子プロゴルファーの岡本綾子さんがア

リカで施行したことで話題となりました。今回の新しい注射薬は、たんばく質を分解せず髄核の成分であるプロテオグリカンの保水能を低下させます。その結果、椎間板内圧が低下し（通常、髄核には保水成分が豊富にあるため保水成分が分解され保水能が低下することで、水分に

よるヘルニアの膨らみが適度に和らぎます）ヘルニアによる神経の圧迫が軽減され症状が改善します。この治療は15分程度で終了します。その後3時間程度安静にし、副作用の発現等がないことを確認したうえで帰宅となります。翌日から軽作業であれば就業は可能です。しかし、

椎間板ヘルニアは一般に4つのタイプに分類され、すべてのタイプに適応される治療ではありません。また、この治療は一生に一度しかできない治療です。2018年8月からこの治療薬は使用可能となりましたが、使用できる医師や施設には制限があります。

〈ヘルニコア投与前後イメージ〉



## 腰椎

椎間板ヘルニアでお困りの方は一度脊椎脊髄病を専門にしている医師に相談することをおすすめします。



# 新年のご挨拶

安曇野赤十字病院 院長 中野 武



新年明けましておめでとうございませう。新年を迎え皆様がお過ごしでしょうか。

はじめに、安曇野赤十字病院の昨年の動きを振り返りたいと思います。昨年は1月に消化器内視鏡センターを立ち上げました。消化器科の専門医が多いことから、当院の得意分野の機能を集約化して、より効率的な検査や治療を行なえる体制を整えました。日常診療以外にも学術的な役割も期待されます。セン

ター立ち上げを機に、消化器疾患全般についての情報誌の作成も行われ、地域や地域医師会などへの配布が行われました。これまで以上に、地域の皆様にご利用して頂ければと考えています。さて、次に今年の当院の目指す方向です。一昨年、地域医療支援病院として承認された当院は、救急受け入れや、紹介患者の受け入れ、逆紹介など地域の医療機関との連携強化に努め、その役割を果たしてまいります。そのためには大型医療機器の共用利用や、地域の医療職、介護職員との勉強会、研修会を通じての地域医療全体の質の向上に努めていく必要があります。引き続きこれらの機能の一層の充実を図る所存です。昨年は国内外で多くの地震、

豪雨、台風災害がありました。当院は赤十字病院として救護班の常設や、資器材の備蓄、研修や訓練で、常に災害に備えた活動を行ってまいります。さらには地域住民の健康維持増進の拠点として、各種予防週間の催事、展示、病院健康まつり、ホスピタルアートの充実や各種の院外地域活動への積極参加を行ってまいります。私たち安曇野赤十字病院は、医療を通じた地域貢献の使命のもと、継続して地域医療を維持、推進するのが目標です。国が進める施策、医療ニーズの変化を見据えて、地域の基幹病院、そして赤十字病院としての責務を果たす所存であり、引き続きのご支援をお願い申し上げます。

最後となりますが、今年一年の皆様のご多幸と、益々のご健勝をご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。  
2019年1月1日

## 「薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン」について

### 感染制御チームから



安曇野赤十字病院 検査部、ICT(感染制御チーム)

赤羽 貴行

「薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン」という言葉はご存知でしょうか？

感染症は微生物が起す病気ですが、基本的には抗微生物薬（抗生物質）で治療をします。しかし、ひと昔前まで治療として使用していた抗微生物薬が現在では効きにくく、治療に難渋するケースが増えていきます。その原因の1つに世界的な耐性菌増加があります。

今、感染症の領域で話題の1つにこの「薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン」が

あります。薬剤耐性菌が世界的に増加していることが数年前から国際社会でも大きな問題になっており2015年世界保健機関（WHO）が Global Action Plan on Antimicrobial Resistance を発表し、これを受け各国がそれに対する対応をプラン化して発表しています。日本では2016年4月に厚生労働省から「薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン」が発表されました。その内容は、表1の6項目からなっており具体的な数値を含めた目標が記載されています。成果目標の中に、ヒトの抗微生物剤の全体使用量について2020年の目標値として、対2013年比で33%減、静注抗菌薬は同比20%減などあります。これらの数値目標達成のためには医療施設の取り組みも必要ですが、国民の一人ひと

りが意識していくことも重要です。また薬剤耐性菌の成果目標では、尿路感染症の起因菌として多く分離される大腸菌のフルオロキノロン耐性率を2014年45%から25%以下にする目標もあり、これからの感染症に対する抗菌薬治療が少しずつ変化していくことも予想されます。抗微生物薬は使えば使うほど耐性菌が出現するリスクがあります。そのため、不必要な抗微生物薬使用や、不適切な抗微生物薬使用を減らすことが重要になってきます。製薬会社は、開発費用などの点から新薬としての抗微生物薬は最近ではなかなか開発しません。今使用している抗微生物薬については、その耐性菌を作らせずに上手に使い続ける、新しい抗微生物薬が出来るまで如何に使い続けていくかが重要となってきます。

表1 薬剤耐性（AMR）対策アクションプラン 2016-2020（概要）

| 分野            | 目標                                      |
|---------------|---|
| 1. 普及啓発・教育    | 薬剤耐性に関する知識や理解を深め、専門職等への教育・研修を推進         |
| 2. 動向調査・監視    | 薬剤耐性および抗微生物薬使用量の動向・監視し、薬剤耐性の変化や拡大を兆候を把握 |
| 3. 感染予防・管理    | 感染予防・管理と地域連携の推進、薬剤耐性感染症の集団発生への対抗強化      |
| 4. 抗微生物薬の適正使用 | 医療、畜水産等における抗微生物薬の適正使用を推進                |
| 5. 研究開発・創薬    | 薬剤耐性の研究、薬剤耐性感染症に対する予防・診断・治療法等の研究開発の推進   |
| 6. 国際協力       | 国際的視野で多分野と協働し、薬剤耐性対策の推進                 |





## トピックス

## 安曇野市出前展覧会

安曇野市美術館博物館連携事業実行委員会主催の出前展覧会が1月17日(木)～1月31日(木)当院で開催されました。この出前展覧会は、安曇野市の美術館・博物館から収蔵作品や資料を持ち出し、作品を出前することで多くの市民が作品を鑑賞する機会を増し、また学芸員等の解説を聞いていただくことで、身近にある美術館・博物館への理解を深め、市民の皆さんが楽しむ機会を設けることを目的とし安曇野市内で毎年開催され、今年も当院を会場として開催していただきました。また、1月25日(金)には作品解説トークやワークショップも開催され、入院・外来患者さんに楽しんでいただきました。



## 安曇野赤十字病院 公開講座

安曇野赤十字病院では、糖尿病患者会「りんどう会」とともに、毎年公開講座を行っています。どなたでも聴講できますので、どうぞ、お気軽にご参加ください！

日時：平成**31**年**3**月**28**日(木) 受付 午前9時30分～

講座 午前**10**時～午前**11**時**30**分

場所：安曇野赤十字病院 2階大会議室

講師：第二神経内科部長 兼子 一真

内容：糖尿病になると認知症になりやすい!? 糖尿病と認知症の関係について

対象：どなたでも聴講できます。

参加費：無料

お申込み：事前のお申込みは不要です。直接、会場にお越しください。

お問合せ：安曇野赤十字病院 糖尿病支援チーム、経営企画課 Tel 0263-72-3170 (代表)